



## オミクロン株の感染拡大と大雪により 非製造業を中心に景況DI値は大きく後退

### 概況(全体)

1月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.3%(前回調査16.7%)、「悪化」が58.3%(同40.0%)で、業界全体のDI値は-50.0となり、前月調査と比較し26.7ポイント後退した。

全国及び東北・北海道ブロックにおいても、回復傾向であった指標が、飲食・宿泊サービス業及び商店街を中心に一気に低下した。また、製造業を中心とした幅広い業種で、部品不足や原材料価格高騰によるコストの増加に対し、価格への転嫁が進んでいない。

### 業界別の状況

製造業は、業況が「好転」したと回答する数が増加し、「悪化」したと回答する数は減少した。

しかし、非製造業においては、「好転」したと回答する数がゼロになり、「悪化」したと回答する数が大きく増加した。

1月中旬以降、オミクロン株の感染者が全国で爆発的に増加したことで消費活動が低下したほか、本県においては大雪の影響により外出しての購買活動が極端に減ったことが非製造業のDI値後退に大きく影響したと考えられる。

全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-50.0	-31.4	-31.9
製造業	-20.9	-23.3	-16.5
非製造業	-69.4	-37.5	-40.4

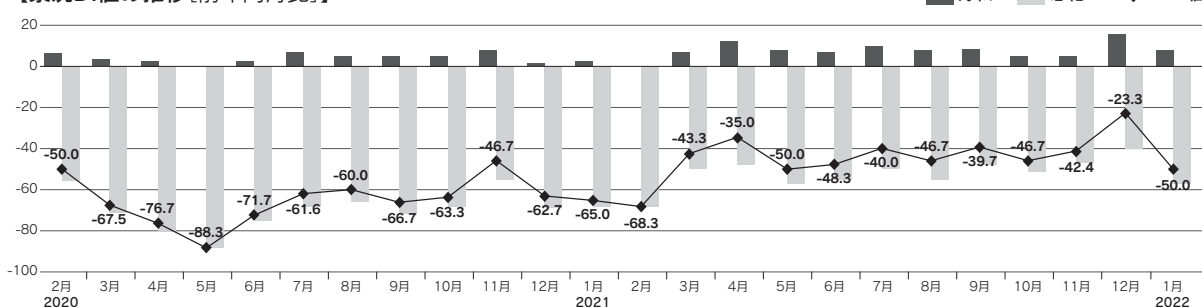
景況天気図

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☔	☔	☔	☀️	☁️	☔	☔
非製造業	⚡	⚡	⚡	☁️	☔	⚡	☔

【凡例】  
 ⚡ 雷雨 -30以下  
 ☔ 雨 -30超 -10未満  
 ☁️ 曇り -10以上 10未満  
 ☀️ 晴れ 10以上 30未満  
 ☀️ 快晴 30以上  
 [天気図の見方] 前年同月比のDI値をもとに作成しています。

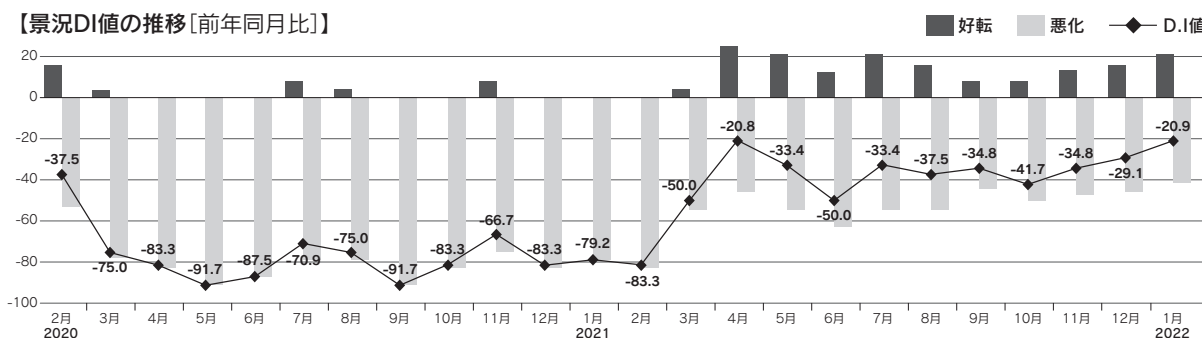
【景況DI値の推移[前年同月比]】

業界全体



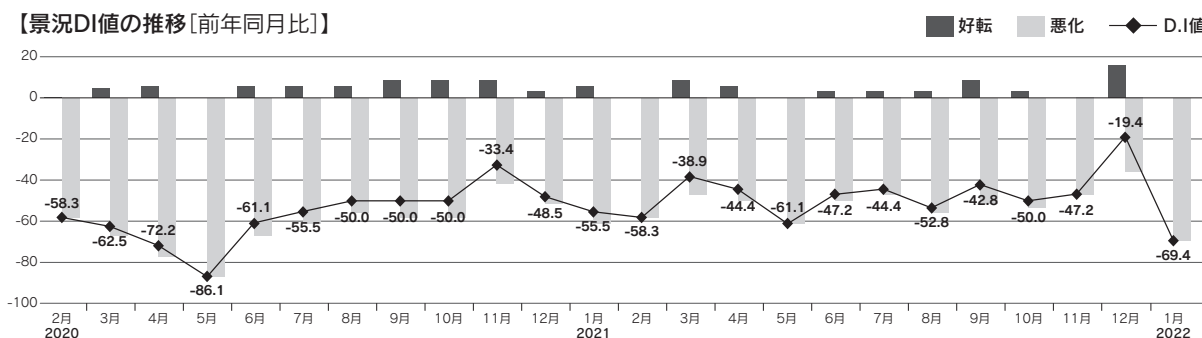
【景況DI値の推移[前年同月比]】

製造業



【景況DI値の推移[前年同月比]】

非製造業



●製造業

(回答数:24名 回答率:100%)

【食料品(豆腐)】

燃料や原材料の高騰によりコストが増加している。そのような中、急激な新型コロナ感染者増加により飲食店や学校給食などの受注が激減した。過去に例を見ないほどの厳しい状況に、本当に苦慮している。

【食料品(精穀・製粉)】

新型コロナウイルスの感染拡大や大雪による道路状況悪化等により、年末年始の休み明け以降は売り上げが伸びなかった。ガソリン、灯油の価格高止まり等による燃料費の上昇も、収益低下に拍車をかけている。

【繊維工業(繊維)】

12月から1月初めは店頭消化率が良く、アパレル各社が発注量を増やしたことで、組合員各社の受注状況は改善した。しかし、人手不足のため受注できず機会損失になることもある。また、外国人技能実習生は帰国が先行し、新規受け入れ(入国)ができない状況が続いている。

【木材・木製品(外材)】

依然、製材、合板とも活況であるが、原材料のスギ原木が製材用、合板用ともに、これまでの品薄感に加え、豪雪の影響による出材不足により、さらに価格が上昇している。

【印刷(印刷)】

消費動向に動きが見え始めていたが、オミクロン株の感染者増加で厳しい状況が深刻化している。先月から各種印刷用紙・材料等の値上げが実施され、今後の受注価格も値上げが必要となっているが、依然として安値受注が見受けられる。

【鉄鋼・金属(鉄鋼)】

収益状況は、昨年来の原材料価格をはじめとする製造原価の上昇の影響から、減益となっている企業が増えてきている。原料価格やその他のコスト増に伴う製造原価の上昇分を、製品価格に転嫁しきれていないのが現状である。

【一般機器(金属加工)】

受注面は、各組合員とも好転し前年同月よりプラスに推移している。しかし、材料費の高騰が原価を押し上げており、販売価格への転嫁が課題となっている。

【生コンクリート】

1月の出荷数量は前年比86.8%であった。また、4月から1月までの累計で98.6%となっている。大館北秋地区は二プロ建設及び日沿道工事、由利本荘地区は鳥海ダム関連工事が増加しているが、その他の地区は軒並み減少している。特に、能代山本地区が単月で前年比28.4%と大幅に減少した。

●非製造業

(回答数:36名 回答率:100%)

【卸売業(商業卸)】

原油価格の高騰による仕入れ単価の上昇のほか、一部商品の入荷が遅れている状況は現在も継続している。また多くの企業でガソリン等の燃料価格の上昇の影響を受けている。先行きの不透明さも相まって厳しい経営状況が続いている。

【卸売業(米)】

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、コメ余りは依然として深刻な状況である。先日実施された令和4年産備蓄米の入札結果を見ても落札価格が前年を大きく下回っている。そのため、今年の秋に収穫される米価もさらに値下がる心配がある。

【小売業(おみやげ)】

オミクロン株の感染拡大により、1月~2月の予約状況は、毎日3~4団体(バスツアー)あったものの、すべてキャンセルになった。なお、北東北3県の同業者も同様の状況である。

【小売業(石油)】

燃料油価格激変緩和対策事業により石油製品の仕切価格は、一時的には抑えられたが、原油価格の上昇により、仕切価格は上昇傾向にある。また、価格が高値で推移しているため定額・定量給油が増加しており、作業効率が低下している。結果としてコストが増え、利益の確保が厳しい状況にある。

【商店街(湯沢市)】

年始商戦はコロナ前に及ばずながら相当の顧客が確保できた。しかし、当地域のコロナ感染者が1月中旬以降拡大したほか、大雪の影響もあり、全業種で苦戦を強いられた。そのため組合員の経営はかなり厳しくなっているが、家族経営の飲食・小売り業に関しては小回りが利くこともあり、一定の収益は確保している。

【サービス業(旅館)】

感染拡大に伴う「出控え」「キャンセル」など、報道に呼応して増加。特に、当地域はビジネス需要に乏しい地域性もあり売上の獲得に苦慮している。また、売上減に燃料費の高騰も追い打ちとなり、休業日(休館日)が非常に多くなった。そのため各事業所の経営は、非常に厳しい局面に入っている。

【建設業(電気工事)】

受注件数は大幅減少した。また、資材高騰や機器等納品の遅れは改善しておらず、そのような中でコロナ感染者が急激に拡大するなど業況は最悪である。

【運輸業(トラック)】

前月に続き燃料代の高騰で採算がとれない。この状態がしばらく続くと予想されるため、今後は資金力が課題となってくる。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。